

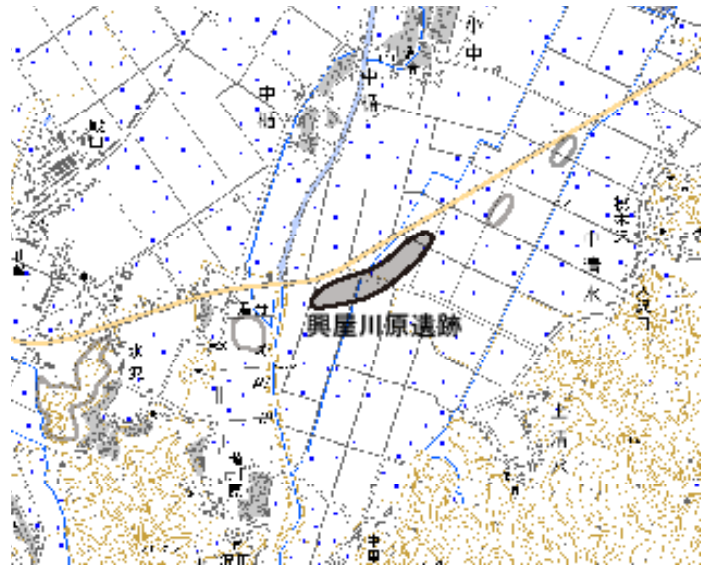
こうやがわら 興屋川原遺跡発掘調査現地説明会資料

2007年9月3日(月)

財団法人山形県埋蔵文化財センター

調査要項

遺跡名	興屋川原(こうやがわら)遺跡
遺跡番号	平成16年度登録
所在地	山形県鶴岡市大字田川字興屋川原
調査委託者	国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
調査原因	日本海沿岸東北自動車道(温海～鶴岡)建設事業
調査面積	1,200㎡
現地調査	平成18年7月2日～平成18年8月31日
遺跡種別	集落跡
時代	古墳時代・平安時代
遺構	掘立柱建物跡・竪穴住居跡・溝跡・土坑・ピット
遺物	土師器・赤焼土器・須恵器・鉄製品・柱根
調査担当者	調査課長 長橋 至 専門調査研究員 黒坂 雅人 調査研究員 斎藤 健(調査主任) 調査研究員 福岡 和彦
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所、庄内教育事務所、鶴岡市教育委員会



遺跡位置図



A区遺構検出状況(北から)



C区遺構検出状況(北から)

1 調査の概要

興屋川原遺跡は、日本海沿岸東北自動車道建設に伴い、山形県教育委員会が試掘調査を行った結果、平成16年度に登録された遺跡です。

計画路線内全体の遺跡面積は約15,000㎡ですが、日本道路公団東北支社(現 東日本高速道路株式会社東北支社)から委託を受け、平成17年度に6,750㎡を第2次発掘調査として、平成18年度は、8,100㎡について第3次調査を実施しました。

今年度、財団法人山形県埋蔵文化財センターは国土交通省から委託を受け、新たに工用道路部分の1,200㎡について発掘調査を実施しました。発掘調査は7月2日から始められ、重機械による表土掘削後、手作業で土を削り、遺構を検出し、図面や写真に記録しながらそれらを掘り進めました。その結果、河川跡、住居跡、溝跡、柱穴跡などを検出することができました。

本年度得られた資料は第1～3次調査と合わせて整理作業を通じて検討を加え、平成20年度以降に報告書として刊行され

予定です。

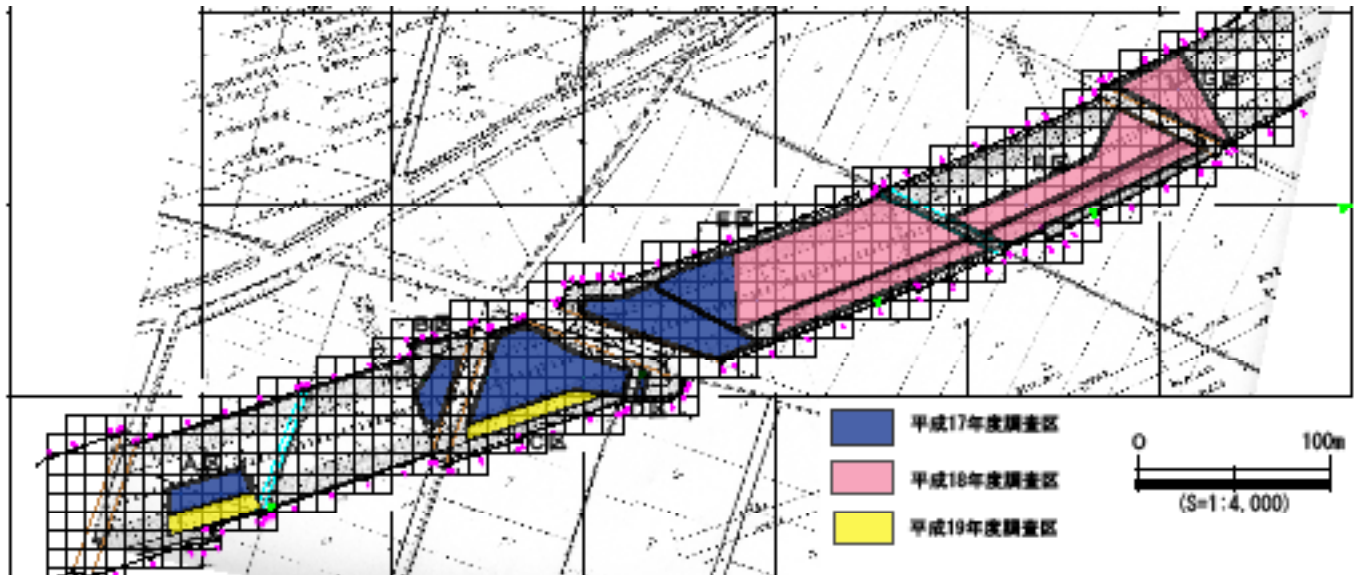
2 立地と環境

興屋川原遺跡は庄内平野の南西端部に位置し、鶴岡市街地から南西へ約10kmの鶴岡市田川地区と大泉地区にかけて所在します。遺跡は大山川右岸の沖積地上に立地し、周辺の地目は水田や畑地で、標高17mを測ります。周囲には大山川を挟んで左岸には行司免遺跡、東側には玉作1遺跡、玉作2遺跡などがあり、昔から人々が生活を営んでいました。

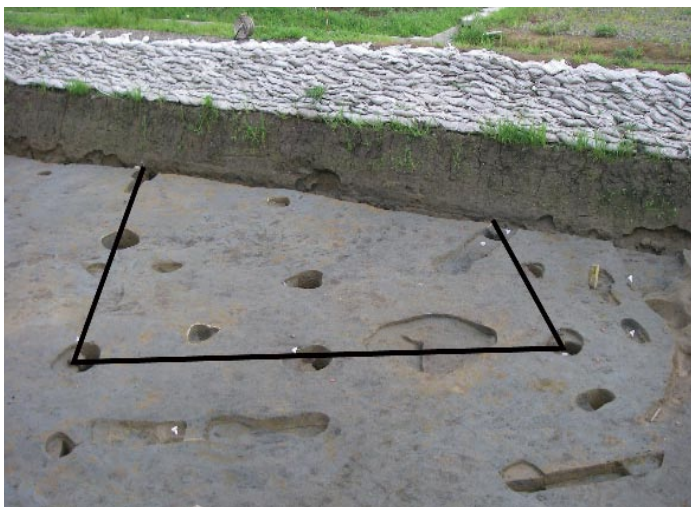
当時、この辺りは自然堤防などの微高地と後背湿地などの低湿地が入り乱れる複雑な地形でした。昭和40年代に行われた圃場整備により平坦化され、大型機械に対応した水田が整備されました。調査でも削平を受けた箇所が確認されています。

3 遺構

17年度の調査では、古墳時代と平安時代の掘立柱建物跡・土坑・井戸跡・柱穴・河川跡などが見つかりました。18年度の調査では、古墳時代の土器廃棄遺構と平安時代の整然と並んだ



調査区概要図



A区平安時代掘立柱建物跡完掘状況（北東から）



C区古墳時代竪穴住居跡検出状況（北から）

大型掘立柱建物群が検出されました。

今年度、A区では17年度の調査で検出された平安時代の溝跡の続きのほか、掘立柱建物跡が1棟検出されました。しかし、建物が調査区の外側にはみ出すため、正確な規模は不詳です。また、建物の柱跡の多くには樹皮が付いた柱がそのまま残っていました。

C区では、17年度に検出された古墳時代の河川跡の左岸を調査しました。古墳時代の竪穴住居跡が1棟と溝跡が検出された他、平安時代の溝跡、柱穴も検出されました。

3 遺物

昨年度までの調査では、古墳時代の土師器、須恵器、勾玉や子持勾玉などが出土しました。また、平安時代では土師器、須恵器の他、河川跡から多数の木製品が出土しています。

今年度の調査でも、古墳時代中期、5世紀後半頃と考えられる土師器や須恵器と平安時代前半10世紀と考えられる土師器、あかやき土器、須恵器といった遺物が出土しています。

古墳時代の竪穴住居跡からは当時の土器である土師器や須恵器の蓋などがまとまって出土しました。

しかし、遺物が集中的に出土する遺構が検出されていないので、出土した遺物の量は多くはありません。

4 まとめ

今年度の調査はA区とC区で行われました。A区からは平安時代の掘立柱建物跡と溝跡が検出されました。C区からは古墳時代の竪穴住居跡と平安時代の溝跡、柱穴が検出されました。

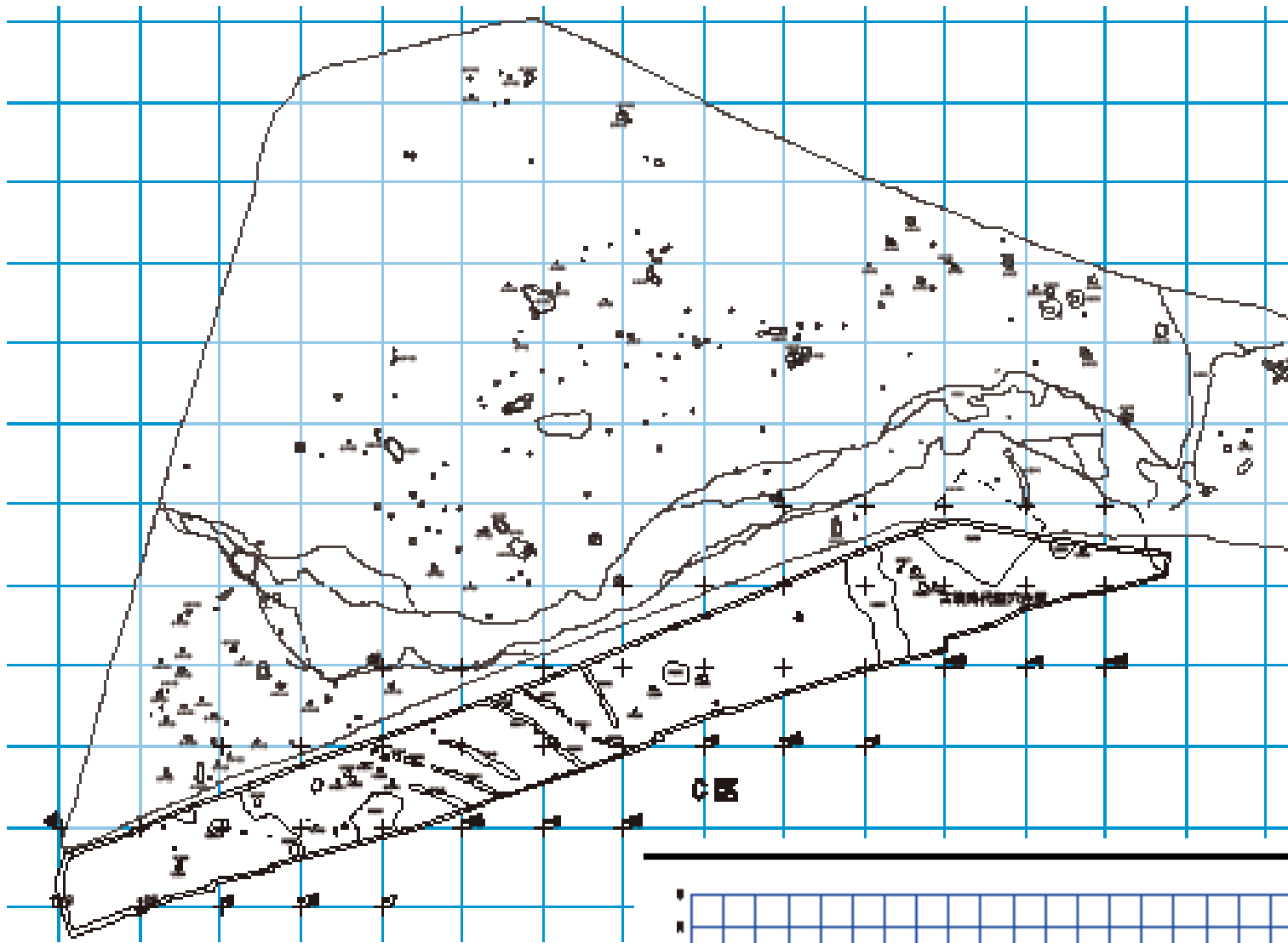
以上、今年度までの3ヶ年にわたる調査で興屋川原遺跡について、以下のことがわかりました。

興屋川原遺跡では大きく分けると古墳時代と奈良・平安時代の人々の暮らしの跡が見つかりました。

古墳時代では、C区に河川跡と竪穴住居跡が、E区には土器の廃棄坑が検出し、F区からは子持勾玉が出土しました。いずれも5世紀後半頃の所産と考えられます。

平安時代では、A区からは規模は不明ながら10世紀の掘立柱建物が1棟と、溝跡が検出されました。E区西側からは木製品や土器が大量に投棄された9世紀と10世紀の2本の河川跡が重複しているのが検出され、同じE区の東側には多数の柱穴柱穴も検出されました。また、F区には8世紀末に遡る可能性もある大形の掘立柱建物が整然と建ち並ぶのが検出されました。

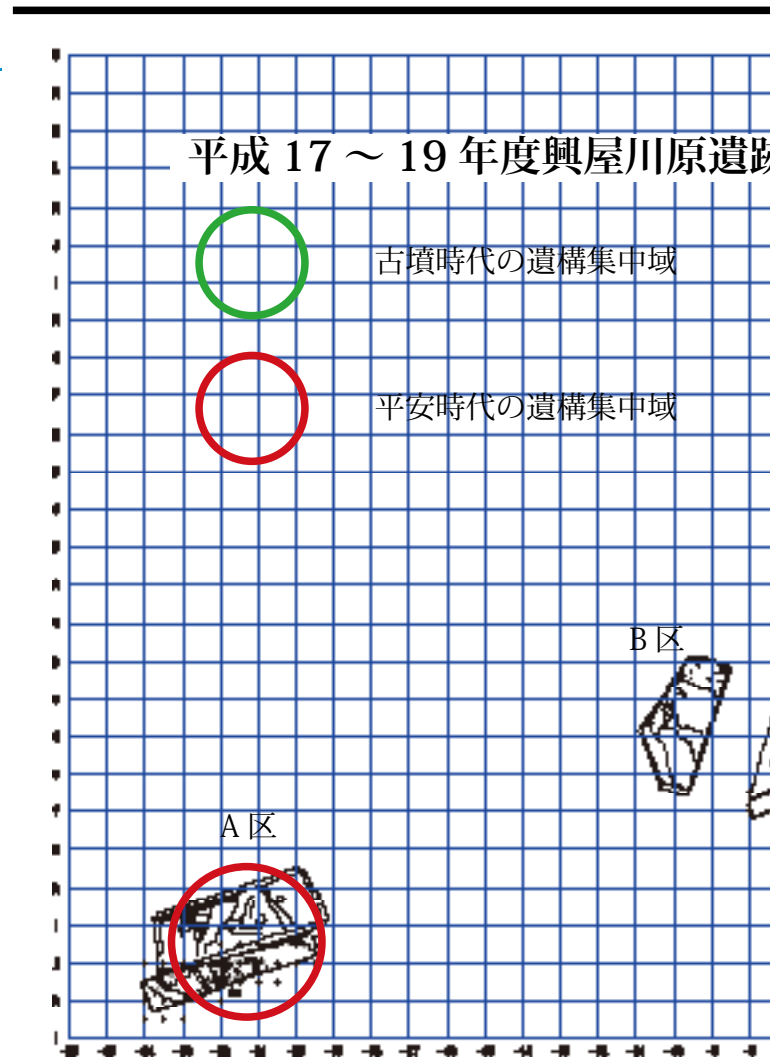
今後、これら3年間の調査で得られた成果を慎重検討しながら整理作業を進め、報告書にまとめていきます。

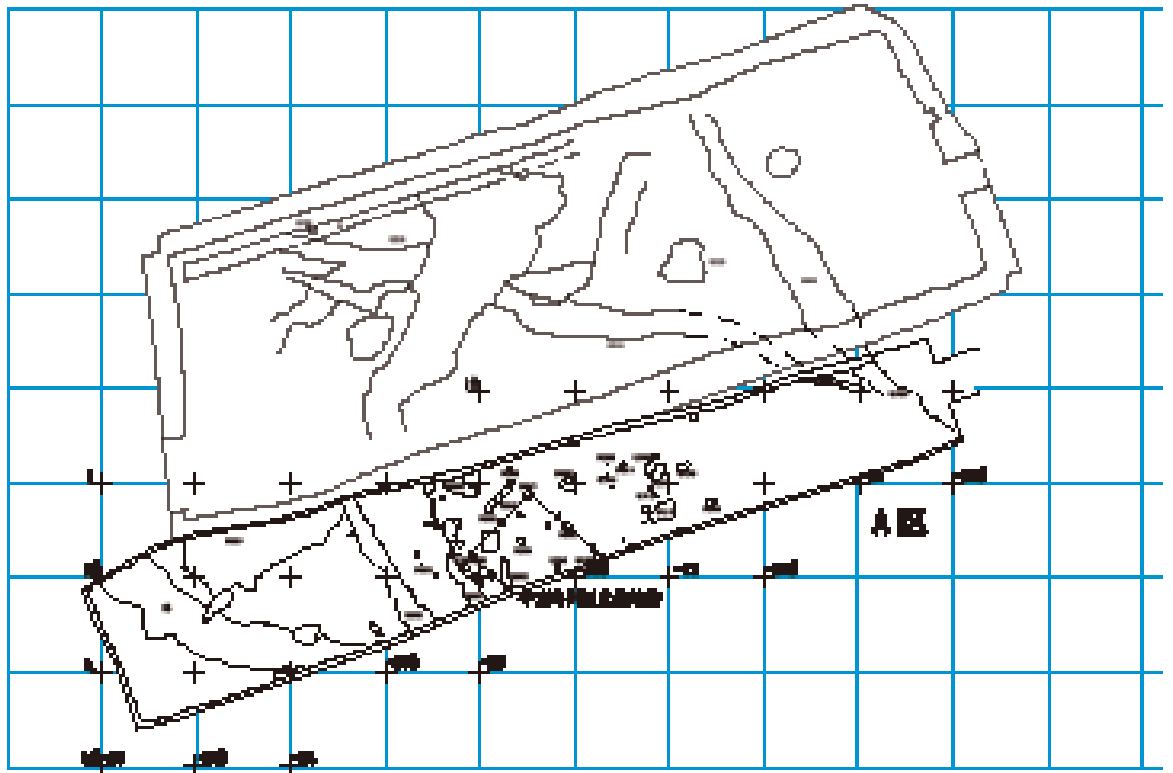


C区古墳時代竪穴住居跡出土土師器



A区平安時代溝跡出土土師器





平成 19 年度興屋川原遺跡遺構配置図 (1:400)

遺構配置図 (1:2,000)

